

奥日光戦場ヶ原 写真集



石下郁子

この夏、奥日光、戦場ヶ原を歩きました。地域主催のバスハイクです。

戦場ヶ原は栃木県日光国立公園の中にあり、平均標高1400m、広さ400haの湿地です。

北に臨む男体山側を国道120号線、別名ロマンチック街道が走っています。

今回歩いたのは、湯の湖、戦場ヶ原の南西を、ゴールの竜頭の滝までの10キロを歩く小田代ヶ原コースです。

国道から見る景色とは別の場所のような林の中の道です。スタート地点は湯本温泉、ビジターセンター。

ここで写真を撮りました。



空は垂れ込めていましたが、吹く風は頬に心地よく小舟が浮かんだ湖の眺めもよし。

私の元気はここまで。



林に踏み入って、ダケカンバの大木。11:18



前の写真と同時刻。湯の湖畔をめぐる、昼なお暗い場所に。11:18



そこを抜けて明るい場所に 。木々の向こうに見えるのはもちろん湯ノ湖。 11 : 28



湯ノ湖の岸に朽ちた倒木が。ふと『カエルの王様』の話を思い出しました。 11 : 36



林道から見たノリウツギ。 11:39



湯滝。これから下に落ちる水。硫黄の匂い、近くに温泉が。 11:43



湯滝、中ほど。11:53



ここで《昼食休憩》

昼食後、同じく湯滝。下から。これからまた歩き始める。12:42



湯滝を抜けて小田が原に向かう途中の林の中に咲いていたサワギク。



小滝に差し掛かる坂道で。12:59



小滝。静かな滝でした。この滝には記憶があります。確か2年前の秋にもここに来ました。13:02



ひたすら歩く。山中の奥日光銀座。遠足の小中学生の姿が多数ありました。
集団にしばしば道を譲ってまた歩く。 13:25



山の中に咲いていたクルマユリ。 13:43



サワギク。13:50





ナナカマド。13:56



ウバユリ。頑丈そうな花でした。13:56



ウバユリ、ノアザミ



ヒヨドリバナ。13:59





『うす闇の向こうで こだまがこたえる。すんなりしたこずえたちが.....』金子光晴『かつこう』



ふとそんな詩が浮かんできました。

小田代が原に咲く花。ノアザミ、その向こうにはホザキシモツケの群落が。

地図で見ると戦場ヶ原はこの奥です。

戦場ヶ原の名前の由来は『兵どもの夢のあと』とかそういうものではなくて、単に伝説によるものです。

日光の男体山の大蛇と、群馬県榛名山のオオムカデが領地争いをした場所というのが言い伝えのようです。

子どものとき修学旅行か何かできて、そんな説明を聞いたときは拍子抜けしました。
景色を眺めて、戦いの跡というよりはいいけれどと思いましたが。14:07



さっき写真を撮っていたら、「ほらこんなに咲いているよ」と教えてくれた人が。ノアザミにホザキシモツケ。

この白い花は、名前を調べましたがどうも不確かで自信がないのでこのままに。14:08



『草原の輝き、花の栄光、再びそれは帰らずとも、なげくなかれ、
その奥に秘めたる、命の力を見いだすべし』 ワーズ・ワース

この景色がすきですね。日光アザミ、イブキトラノオ。14:09



クガイソウ。14:45



クガイソウ、ホザキシモツケ。



ホザキシモツケ。



戦場ヶ原、ここで本当にカッコウの声が。カッコウはこの奥の林のほうから聞こえてきました

。 15:02



もう展望台は過ぎましたか。遅れているのでしみじみ眺める余裕なし。
どうか撮った写真がこの景色と感動を思い起こさせてくれますように。





終点竜頭の滝。滝横の歩道（石段）を下におりました。

竜頭の滝は下から見上げると本当に竜を思わせませんが、それよりも大小の岩を超えて落ちる水の勢いが、竜の体を連想させました。

もう疲れ果てていて「どんな写真でも」と、やっとシャッター押しました。



バスの場所まで行く直前に撮った最後の1枚。竜頭の滝。どの写真もあまり考える余裕もなくシャッターを押しましたが、自分では一番好きな写真です。15:55



4時間の予定が1時間延びた山・里歩き。帰りのバスに乗ったら今までの疲れが吹き飛びました。
歩行数、2万歩を超えました。

奥日光戦場ヶ原写真集

<http://p.booklog.jp/book/77278>

著者：石下郁子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/thmo2535/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77278>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77278>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ